

〈愛のかたみに〉

ジャーナリスト
松本 侑壬子

亡母と瓜二つの顔のプリマドンナ。彼女は誰？ 秘められた家族の謎を追って、ベルリンからニューヨークへ。

『ハンナ・アーレント』や『ローザ・ルクセンブルグ』など、歴史的に名高い闘う強い女性像を描いてきたドイツの名匠マルガレーテ・フォン・トロッタ監督の最新作である。今度は一転、サスペンスフルな家族の愛の映画だ。監督自身の家族の過去の実話を基に、あるきっかけで次々に明るみに出てくる思いがけない父と母の秘密。そこから家族それぞれが知らずして歩んできた人生の道……。十分に練り上げられた巧みな物語の展開に思わず巻き込まれ、ぐいぐいと引つ張られてゆく。さすがトロッタ！ 見ごたえ十分です。

ドイツの小さなクラブの歌手をクビになったばかりのゾフィは、その日父親から思い詰めた声で呼び出される。行ってみると、ネットのニュース画面に一

年前に亡くなったばかりの最愛の母エヴェリンに生きうつしの女性の顔が。カタリーナという、NYメトロポリタン・オペラの有名な歌手だという。

父は憑かれたように、彼女のことを知りたいと、強引にゾフィを送り出す。見知らぬ街で、相手は世界のオペラの大スター、名もないドイツのクラブ歌手と誤りが違う。それでも、と意を決して体当たりするゾフィの心意気。美人の独身女ざかりぶりも大いに発揮しながら、カタリーナのエージェントを味方につけ、迷惑顔のカタリーナに振り回されながらも、彼女と母との関係を探り出そうと頑張る。カタリーナの母親だという老人施設の認知症の老女ローザ。彼女の文箱の中の古い写真と手紙の束。カタリーナの微かな記憶に残るローザの口癖。どうやら母エヴェリンには家族に見せない別の顔があったらしい……。

家族の謎を追って飛び歩く主人公ゾ

フィ役のカッチャ・リーマンも、その母と、母に生きうつしのプリマドンナの二役を演じたバルバラ・スコヴァも、ともに女優だが歌手でもある。リーマンはジャズやブルース、スコヴァはオペラであるが、ともに吹き替えでなく見事な歌声を聞かせる。特にスコヴァは、『ハンナ：』や『ローザ：』でトロッタ監督のミュージック女優として知られているが、今回は堂々オペラの舞台やレッスン場面を披露している。トロッタ監督は「歌手として記念碑的作品にしたかった。この映画は私から二人に捧げるオマージュです」と語っている。

この映画の着想は、三〇年以上前、女優／監督として活躍していたトロッタ監督自身の体験から得たという。ある日、見知らぬ女性から「私はあなたの姉です」という手紙を受け取り、驚いて会ってみると彼女は半年前に亡くなった母に生きうつしだった。そして次々に自分の知らなかった事実が明らかに。晩年アルツハイマーで、何も語らぬまま亡くなった母への思いは、なぜ？ を超えて今ようやく物語にすることができたのである。

ダイナミックな展開の中に、家族愛とは、絆とは、を考えさせられる。

『生きうつしのプリマ』

ドイツ映画 (101分)

監督：マルガレーテ・フォン・トロッタ

出演：カッチャ・リーマン、バルバラ・スコヴァ、マティアス・ハーピヒほか

公開中

©2015 Concorde Filmverleih / Jane Betke

